

- and Management 11(4), 175-189.
- 汪光熙ら 1998. スルホニルウレア系除草剤抵抗性生物型のキクモの出現. 雑草研究 43(別), 38-39.
- 藪野友三郎 1975. ヒエ属植物の分類と地理的分布. 雑草研究 20(3), 97-104.
- 山岸淳 1983. ミズガヤツリの生活過程の解析と防除に関する研究. 雑草研究 28(2), 71-78.
- 山岸淳 1985. 水稲作雑草防除の現状と問題点 温暖地. 雑草研究 30(3), 188-194.
- 山崎信弘 1997. 北海道における水田雑草の発生状況. 植調 31(6), 231-237.
- 山崎幸重 1999. 高知県の早期水稲における雑草の発生生態と防除技術. 植調 33(7), 256-259.
- 保田謙太郎 2018. 水田に生育する水田雑草タイヌビエの由来. 植調 52(8), 574-577.
- 横山昌雄 2017. 第4世代の一発処理剤「問題雑草一発処理剤」. 植調 51(3), 75-80.
- 米倉正直 1988. 神奈川県におけるミズガヤツリの種内変異と防除上の特性に関する研究. 雑草研究 33(2), 89-96.
- 吉田修一ら 1999. 宮城県におけるスルホニルウレア系除草剤抵抗性イヌホタルイの確認. 雑草研究 44(別), 70-71.

田畑の草種

洋種山牛蒡, 亜米利加山牛蒡
(ヨウシュヤマゴボウ)

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

ヤマゴボウ科ヤマゴボウ属の多年草。北アメリカ原産で明治の初めに渡来したとされ、空き地や道端などにごく普通。茎は太く赤みを帯び、背丈は2mにもなる。花序は垂れ下がり、花はやや赤みを帯びた白色であるが熟すと黒紫色になる。この果実をつぶすと赤紫色の果汁が出るが、これが衣類や皮膚に着くとなかなか落ちない。全体にアルカロイドなどの有毒成分が含まれる。

子どものころ、大阪の堺市に住んでいた。小学校の4、5年生の頃だっただろうか算盤塾へ通っていた。特に算盤の上達を望んでいたわけでもなく、少し離れたところの子ども達も集まってくるのが楽しかった。その塾の道向こうに少し大きな空き地があった。塾に通う子どもらは、早めに集まって空き地で遊ぶのが楽しみであった。

夏休みに入ると、集まる時間も早くなってくる。その空き地にもうっそうと草が繁り、その草をかき分けての秘密の基地づくりが始まるのである。周りには子どもの背丈以上の草が繁っていた。通路になるところを足で踏み固めながら、その奥を少し広げて草を座布団のように敷き、何するわけでもなく家から持ってきたお菓子を食べていた。

ところがある日を境に基地づくりが終わった。仲間の誰かが服を紫色に染めて帰ったところ家の人に見とがめられ、お兄さんかお姉さんか、誰か植物に詳しい人に教えられた。その草は「ヨウシュヤマゴボウ」と言って毒なんだよ、と。

以来、未だに、ヨウシュヤマゴボウを見ると触らずに避けて通り過ぎている。